

工事の実施状況等について

平成30年8月

沖縄防衛局

台風7号とその対策について

台風予想の経緯

- 6月29日(金)時点の気象庁予報において、台風7号が発生、沖縄本島最接近が7月1日(土)、中心気圧980hPa。この時点では、シュワブ海域最大波高5.9m前後、平均風速が11m/s、沖縄本島を1日で通り過ぎるとの予報。
- 台風対策完了後の7月1日(日)から2日の気象庁予報等では、中心気圧975hPaから、2日(月)にかけ965hPa。この時点では、最大波高8.5m、平均風速が16m/s、台風の進行速度が遅くなるとの予報。

台風対策について

- 6月29日(金)朝の気象予報を基に、台風対策の実施を判断。
- 予報によれば、7月1日(日)の大浦湾沖の平均風速は11m/sであり、かつ、最大瞬間風速は15m/sとなる時間帯があるものの、比較的短時間であったことを踏まえ、
 - ①航路部のフロートの撤去
 - ②シュワブ沿岸域に停泊させている作業船(起重機船、台船)の避難
 - ③仮設浮棧橋の一部を撤去することを計画。

台風7号により被害及び被害が生じた原因

- 辺野古側の施行区域を明示するためのフロートの一部等が護岸に打ち上げられるなどの被害。
- フロートを固定している鋼製アンカーが移動したことに伴い、海底面を削り、海草藻場を損傷。
- 台風発生時には、接近したとしても勢力の弱い台風であるとの予報であったことから、台風対策を限定的に行ったこと。
- 沖縄本島へ接近後、予報よりも勢力を増し、平均風速が20m/sが実測されたこと、沖縄本島付近で台風の進行速度が遅くなったことにより、風波による影響を長時間受けた(平均風速15m/s以上がおおむね3時間程度)こと。

上記要因により、当初想定していた以上の台風の発達により、被害が生じてしまった。

今後の対応

- 辺野古側のフロートについて、台風の最大瞬間風速が一時的であれ15m/sとなる気象予報がされた場合には、撤去する対策を行う考え。

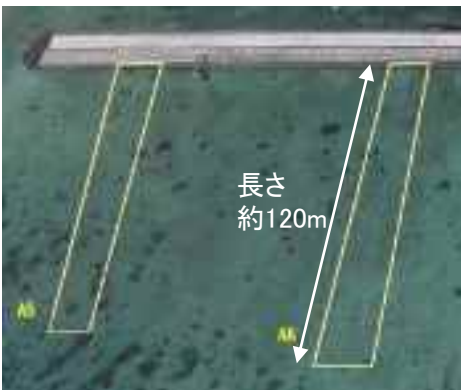
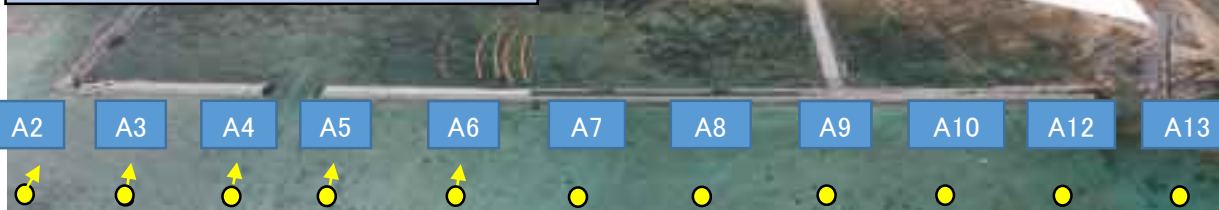
アンカー移動による海草藻場への影響について

○辺野古側のフロートが岸側へ大きく移動したことに伴い、フロートを固定するために設置されていたアンカーも移動した状況が確認されたことから、海況が安定した7月15日から潜水調査を行い、海草藻場の被害状況を確認。

凡例

- 調査対象としたアンカー設置位置
- 撮影方向

※米軍施設に関する情報を含んでいるため。 7月13日撮影



アンカー痕

地点	長さ	幅(平均)	深さ(平均)
A2	約 120m	約 1.1m	約 10cm
A3	約 120m	約 0.8m	約 6cm
A4	約 120m	約 1.5m	約 6cm
A5	約 120m	約 1.2m	約 5cm
A6	約 120m	約 1.0m	約 11cm
A7	約 120m	約 1.1m	約 6cm
A8	約 120m	約 1.3m	約 12cm
A9	約 110m	約 1.0m	約 7cm
A10	約 25m	約 1.0m	約 9cm
A12	約 2m	—	—
A13	約 30m	約 0.9m	約 6cm

幅及び深さについては、アンカーの設置位置から地点0m、10m、20m、30mの平均値 (A10、A12は除く)

※アンカー痕全延長でサンゴ類への影響を確認したが、サンゴ類に対する損傷などの影響は確認されなかった。また、底生動物への影響についても確認されなかった。



【今後の対応】

今後、当面の間、モニタリング調査を実施していく考え。

また、資料3で示した海草類の移植(種苗など)や生育基盤の改善により海草藻場の拡大を図る保全措置について、専門家等の指導・助言を得ながら進めていく考え。